

燕巢山 (2222m)

見出し

燕巢山へ栃木県から入山し栃木県に下山する
こだわりのバリエーションルート。

座名

燕巢山 (つばくるすやま)

難易度

上級 (無積雪期)

延べコースタイム

1日目 8時間 25分、2日目 6時間 15分

コースタイム

女夫淵 = (3時間 45分) = 物見山 = (4時間
40分) = 燕巢山手前のコル(泊) = (30分)
燕巢山 = (2時間 50分) = 湯沢峠 = (1時間
40分) = 日光沢温泉 = (1時間 15分) = 女夫
淵

標高

2222m

前文

地形図とコンパスを駆使して藪を掻き分け辿
る難ルート。

小見出し

辿る人も稀な県境尾根には冒険要素が溢れて
いる。

藪に守られた静寂の山

栃木県側から燕巣山へ登るルートは二つある。一つは女夫淵から鬼怒沼湿原を經由して物見山へ登り、山頂から南へ延びる人跡皆無の県境尾根を南下するルート。もう一つは同じく女夫淵を出発し日光沢温泉から丸沼温泉へ通ずる古道を辿り、湯沢峠から北西に延びる県境尾根を北上するルートである。いずれも尾根上には登山道はおろか踏み跡すらなく、地形図とコンパスの使用に長けなおかつチシマザサやシャクナゲの密藪漕ぎを苦にしない篤志家向けのルートである。

今回は女夫淵を起点に物見山から県境尾根南下ルートで燕巣山へ登頂し、更に県境尾根を辿って湯沢峠へ下り、日光沢温泉を経て女夫淵へ戻る山中1泊周回ルートとして両ルートを紹介する。

第一日目

女夫淵から鬼怒沼湿原までは奥鬼怒山の頂を参照されたい。

湿原の北端から大清水へ通ずる登山道を西へ向かうとひと登りで物見山である。ここから明日湯沢峠に出るまでは登山道とはお別れとなる。

物見山々頂から南下する県境尾根は取り付きが少々分かり辛い。特徴的な地形を地形図に重ねコンパスで方向を定めて思い切って藪に飛び込もう。灌木混じりの猛烈な笹藪を50mも下りれば尾根形が明確になり一安心。しかし背よりも高い笹藪は一層ひどくなり視界はないに等しい。

2091ピークあたりから始まるやせ尾根にはシャクナゲと灌木の密藪が待っていてかなり難儀するが、極力尾根を外さずに歩きたい。

燕巣山直下のコルにはツエルトが数張り張れる僅かな平坦部がある。山頂にはテント適地がないのでここに泊まるのが良いだろう。

第二日目

急登をひと登りして膝上ぐらいの気持ちの良い笹藪を過ぎるとついに燕巣山々頂である。四郎岳からの巡視道を使って登ってくる人も多いらしく幾つもの山名表示板が付けられている。

下山は県境尾根を南東へ辿るが、前日と違って赤テープの類が散見されるので幾分安心感がある。山頂からの出だしは尾根形が不明瞭なので十

分に地形と方角を確認したい。

2083 小ピークとのコル付近で一時踏み跡に出会い赤テープが煩雑なくらい出てくるが、それも長くは続かず再び笹藪との格闘が始まる。

2045 小ピークで県境が南南東へ向きを変える地点とその平坦部から急下降に移る地点が分かりづらい。1950 くらいから東南に派生する枝尾根に引き込まれないよう湯沢峠の対岸の 2001 ピークを確認しながら進むとよい。小ピークを通過し突然視界が開けるとそこが湯沢峠である。

あとは古道をのんびり 1 時間 40 分ほど歩けば日光沢温泉、さらに登山道を 1 時間強で女夫淵へ帰着する。

(2003 年 11 月踏査)

交通

鬼怒川温泉駅から栗山村村営バスで女夫淵下車。

駐車

女夫淵に駐車可能であるが紅葉の時期は満車になる場合が多い。

ワンポイントアドバイス

県境尾根上には水場がないので 2 日分の水の準備が必要。

登山適期

10月から11月(藪が衰える無雪期)または3月から4月の残雪期

筆者

株式会社 本田技術研究所 栃木研究所 研友会 山岳部 / 熊谷山旅会 所属

園 比呂志

問い合わせは筆者 HP (<http://www.ksky.ne.jp/~sonoh/index.html>) まで。